

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2014 年 8 月 4 日提出

氏名	境 瑞紀
所属	環境獣医科学講座 公衆衛生学教室
学年	博士課程 4 年
出張先	Montréal's Convention Centre, Montreal, Canada(カナダ)
出張期間	2014.7.27~8.3
目的	国際ウイルス学会議での口頭発表

活動内容

私は、2014 年 7 月 27 日から 8 月 1 日の期間にカナダのモントリオールで開催された International Union of Microbiological Societies (IUMS) 主催による国際ウイルス会議に参加して口頭発表を行ったので、その活動を報告します。

開催地であるモントリオールは、カナダのケベック州最大の都市であり、国内ではオタワ州のトロントに次ぐ第二の都市となっています。市民の大半がフランス系を中心とするヨーロッパ系住民であり、公用語はフランス語です。このため滞在中は英語が通じないこともあり、若干苦勞することもありました。街には観光地として有名なノートルダム大聖堂 (図 1) や聖ジョゼフ礼拝堂をはじめとして、いたる所に教会があり、カトリックの色濃い街でした。この街の中心近くに、今回学会会場となった国際会議場があります。

本学会は前回の札幌開催に引き続き、第 16 回目の開催でした。世界各国の研究者が 500 名以上参加したと見込まれます。到着日のレセプションパーティーが開催され参加者との交流を行った後、5 日間を通して各国研究者による口頭発表およびポスター発表が行われました。毎日 8:30~11:00 にウイルス関連分野、細菌関連分野および真菌分野のキーノートの講演 (各 30 分)、11:00~13:00 にポスター発表、14:30~17:00 (各 15 分) に各分野の中でセッションごとの口頭発表が行われる、といったスケジュールでした。午前中のキーノートの講演はすべてウイルス学分野のものを聴講しました。どの講演も比較的広い分野にまたがるトピックが多く、たとえばウイルスの進化や細菌とウイルスの相互作用等、普段主に、研究対象のフラビウイルスについてしか勉強していない私にとって目新しく、興味深いものが多かったです。前回の札幌開催時と比べて、ポスター発表 (図 2) および口頭発表の数は少なかったのが残念でしたが、それぞれのセッションでは、さまざまな分野の最先端の発表を聴講することが出来、最新の情報を得る機会となりました。

私の発表は2日目の午後で、フラビウウイルスのセッションで行われました(図3)。私にとって海外で開催される学会での口頭発表は、今回が初めてであったため、1週間ほど前から緊張しており胃痛にも悩まされたほどでした。幸い当日はさほど緊張せずに発表を終え、最も心配していた質疑応答も、親切な座長の方のサポートもあって、不完全でしたがどうにか答えることが出来ました。発表終了後にも質問者とディスカッションをする機会があり、今後の研究に有用な意見を得ることが出来ました。

最終日には学会会場でのバンケット(晩餐会)も設けられ、フランス料理のコースを楽しむ時間もありました(図4)。

今回の学会参加を通して感じたことは、多分野にわたる規模の大きな国際学会に参加することで、世界のウイルス研究分野の中における自分の研究の意義や位置づけを再確認できた、ということです。卒業まであと残りわずかとなりましたが、今回の学会参加で得たものを今後の研究、そして卒後の自分の仕事に生かしていきたいと思います。今回、このような貴重な機会を与えて頂いた荻和教授、好井准教授、リーディングプログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。

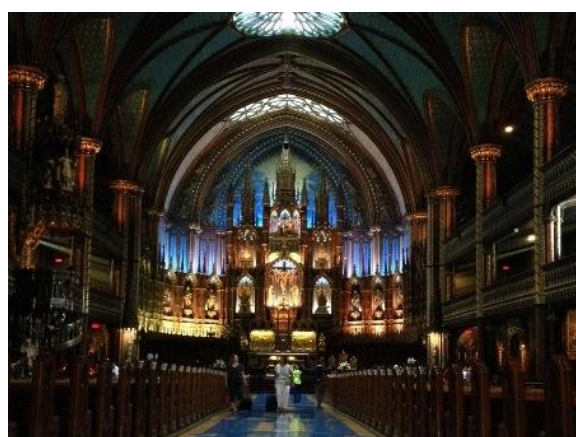


図1 会場近くのノートルダム大聖堂

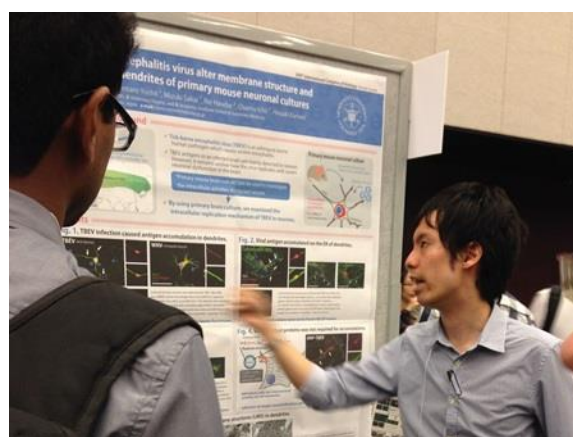


図2 ポスター発表の様子



図3 口頭発表の様子



図4 バンケットの様子

指導教員確認欄	環境獣医科学講座 公衆衛生学教室 教授 荏和宏明	印
---------	-----------------------------	---

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp